

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	なかむらがくえんじょしこうとうがっこう				②所在都道府県	福岡
27～31	①学校名	中村学園女子高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科 1331名	
普通科	436	40	40		516		
⑥研究開発構想名	地球規模の課題「食」を通じたグローバル・リーダーの育成						
⑦研究開発の概要	<p>本校が考えるグローバル・リーダーに必要な資質を、「食」という地球規模の課題に対し、国内外の機関と連携して解決に取り組むことを通じて育成する。</p> <p>併せて、グローバル・リーダー育成のために必要な教育課程、ルーブリックによる評価法等を開発する。</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本校が考えるグローバル・リーダーとは、日本人としての自覚を持ち、①地球規模の課題に対する幅広い関心を持ち、自主的に学習し教養を深めることができ、②多様性を認めながら、主体性を発揮できるためのコミュニケーション能力を持ち、③自ら課題を設定し、他者と協働して解決にあたることのできる資質を持つ人材である。この資質を、「食」という地球規模の課題に取り組むプロジェクト型学習（PBL）を主軸とした教育課程を開発し育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>①現状「自主性・課題発見能力の涵養」が課題であり、広範な知識の中から留学生等とのディスカッションを通じて課題を発見できるような機会を設けることで自主性・課題発見能力の涵養ができる。</p> <p>②現状、「ダイバーシティ&コミュニケーション能力の飛躍的向上」が課題であり、海外研修、各授業における英語でのディスカッションやディベートで優れたコミュニケーション能力の飛躍的向上が見込める。</p> <p>③現状、「課題解決能力の獲得」が課題であり、教科横断型学習や総合学習の時間の見直しといったカリキュラム再編で課題解決能力の獲得ができる。</p> <p>④現状、高大接続及び新たな入試制度への対応が課題であり、連携大学等と高大接続によるグローバル・リーダーの育成と併せて、そうした育成課程の評価を新しい入試制度に反映させることで、中等教育でのさらなるグローバル・リーダー教育に弾みがつく。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>調査・研究の成果を、随時発表する。また、プレスリリースとともにホームページや広報誌で広く一般に公表する。</p> <p>H29年度から毎年、「食のサミット」を開催し、その成果を国際機関に提言する。</p>					
		⑧-2課題研究	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>知徳を備えた女性を育てることを理念とした本校のこれまでの取組・強みを生かし、「食と栄養」「食と経済」「食と社会文化」「食と環境」という4つの食に係るテーマに生徒が取り組む過程で、グローバル・リーダーに必要な素質を身につけさせる。</p> <p>(2) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <p>高校1年生で海外留学生と英語でディスカッション・プレゼンを行うグローバル・キャンパスや、高校1・2年生で海外フィールドワークを実施するなど、グローバル・リーダー</p>				

	<p>一育成に関する課外の取り組みを実施していく。 また、高校3年生では連携する国際機関・企業・大学等と「食のサミット」を開催し、地球規模での課題を模擬国連方式で議論し、そのまとめを国際連合世界食糧計画 WFP 協会に対して提言を行うなど、これまでの学びの集大成を行う。</p>
<p>⑧ -2 課題研究</p>	<p>(2) 実施方法・検証評価 平成27年度は、生徒に対して「グローバルマインドの醸造」と「広範な知識の獲得」を中心に行い、平成28年度以降のグローバル・リーダー養成のため新たに設置するクラス（SGクラス・40名）の準備を行うものとする。 具体的には以下の通り。 <input checked="" type="checkbox"/> グローバルマインド醸造のため、連携大学の留学生等のべ50名と実施する宿泊研修や10日間にわたる海外研修において多様な文化に触れたり、ディスカッション等を行う機会を設ける。 <input checked="" type="checkbox"/> 広範な知識の獲得のため、連携する国際機関や大学等から専門家を招聘し、「食」に係わる様々な講演を実施する。 <input checked="" type="checkbox"/> いずれの取組もインプット中心で終わらぬよう、英語によるプレゼンの実施など、必ずアウトプットの取組を並行して実施する。 <input checked="" type="checkbox"/> 総合学習の時間や学校独自科目の設定、教科横断型のカリキュラムなど、グローバル・リーダーを育成するための専門の正課クラス（SGクラス・40名）をH28から開設できるよう準備する。 <input checked="" type="checkbox"/> SGクラスではアクティブ・ラーニングや教科横断型の取り組みを行っていくことから、教員の指導力養成を高大接続で実施し、また教員に対する指導方法や評価方法の確立と充実を図るべくルーブリック原案を作成し、平成28年度からの試行的運用に備えるものとする。 <input checked="" type="checkbox"/> なお、検証評価については生徒に対するアンケート調査によって意識変化等を定性的・定量的に測定するものとする。また、英語力向上については高校卒業時にCFERでB1～B2レベルの獲得を目指し、客観的な評価を行う。 <input checked="" type="checkbox"/> そのほか、検証評価についてはルーブリックを策定することから、当該ルーブリックに則した検証評価を実施していく。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 「総合的な学習の時間（2単位）」を「探究科（2単位）」として名称変更し、平成28年度から実施する。適用範囲は高校2・3年次にSGクラスに在籍する生徒40名とする。単位認定（2単位）を行う。</p>
<p>⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 ① <日本人としての自覚の養成> 日本史・家庭科・道徳・茶道を通じて、日本の歴史や文化・生活様式について学ぶ。これを留学生や姉妹校生徒に英語で伝える機会を設ける。 ② <英語運用能力の向上> 高校2・3年生での全ての英語授業をティームティーチング（TT）で行い、ディスカッション・ディベート・プレゼンテーションを実施する。ケンブリッジ英検の受験を義務づけ、CEFR：B1～B2レベルをSGクラス全員が達成する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特に必要ない。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>特になし</p>

ふりがな	なかもらがくえんじょしこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	学校法人中村学園 中村学園女子高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:							120人
	SGH対象生徒以外:		20人	71人				100人
目標設定の考え方: ボランティア活動・グローバル教育研修などへの参加者数を増加させる								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:							30人
	SGH対象生徒以外:		38人	35人				35人
目標設定の考え方: 姉妹校(アメリカ・マレーシア)などへの研修参加者数を増加させる								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:							50%
	SGH対象生徒以外:		%	%				20%
目標設定の考え方: 姉妹校交流・オープンキャンパス参加者数を増加させる								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:							20人
	SGH対象生徒以外:		120人	125人				150人
目標設定の考え方: 高体連・高文連以外の他の各種機関主催の大会への参加者数を増加させる								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:							100%
	SGH対象生徒以外:		3%	3%				30%
目標設定の考え方: 英検・TOEFLの受験者数を増加させる								
英検・グローバル・キャンパス参加者(高校1年生)の満足度を高める								
f	SGH対象生徒:							95%
	SGH対象生徒以外:		—	—				90%
目標設定の考え方: PBLを用いる中で自主性を高める機会を増やす								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:							70%
	SGH対象生徒以外:		45%	45%				55%
目標設定の考え方: 国際化に重点を置く大学のオープンキャンパス参加者数を増加させる								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:							20人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人				15人
目標設定の考え方: 海外連携大学等の進学ワークショップ実施により増加させる								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:							90%
	SGH対象生徒以外:		-	-				20%
目標設定の考え方: 提携大学・留学生との交流により割合を高める								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:							30人
	SGH対象生徒以外:		-	-				20人
目標設定の考え方: 国際化に重点を置く大学への進学者を増加させる								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	0人	0人						40人
	目標設定の考え方: 31年度の国際大会開催へ向けた取り組みを加速させる							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	0人	0人						560人
	目標設定の考え方: グローバル・キャンパスとそれ以外の研修への参加者を増加させる							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	校	校						4校
	目標設定の考え方: 姉妹校(アメリカ・マレーシア)と中村学園大学の連携大学との連携を深める							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	0人	0人						84人
	目標設定の考え方: グローバル・キャンパスと課題研究の講師数を増加させる							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	0人	0人						9人
	目標設定の考え方: グローバル・キャンパスと課題研究の講師および企業コラボ関係者数を増加させる							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	1人	3人						10人
	目標設定の考え方: ボランティア活動と食・栄養・流通に関する大会の参加者数を増加させる							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	5人	12人						35人
	目標設定の考え方: 入試制度の整備、姉妹校との短期・長期の交換留学を推進する							
h	先進校としての研究発表回数							
	0回	0回						3回
	目標設定の考え方: 文化祭と年度末に研究発表、3年後に国際会議(食のサミット)を実施する							
i	外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	×	○						○
	目標設定の考え方: 27年度中に整備完了し随時更新する							
j	(その他本構想における取組の具体的指標)							
	目標設定の考え方:							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	1,409	1,430	1,331				
SGH対象生徒数			436				
SGH対象外生徒数			0				